新聞　（第３種郵便物認可）

高校生を対象にした防災ワークショップが29日、益田市内であり、島根、岡山両県から参加した6校の約40人が地域防災活動を支援するＮＰＯ法人のメンバーの指導を受けながら、水害や土砂崩れを想定した図上訓練に取り組んだ。

益田市のハザードマップを見ながら、危険箇所を確認する生徒

水害、土砂崩れ どこへ逃げる？

益田 高校生が図上訓練

鳥取県を加えた3県内にある67のロータリークラブでつくる国際ロータリー第２６９０地区が、防災意識の向上とリーダーシップの養成を目的に企画。益田市神田町の医師、松本祐二さん(62)が同組織のガバナー（管轄者）を務めていることから開き、島根は益田、益田東、明誠、津和野高校、岡山は岡山学芸館、おかやま山陽高校が参加した。

参加者は4班に分かれ、縮尺２５００分の１の益田市街地の地図に記された広場や駐車場、神社、学校など、避難場所を確認。市の水害・土砂災害ハザードマップを見ながら、水害や土砂崩れの危険箇所を色分けして塗り、命を守るために必要な事項を学んだ。

松本さんは、益田市や周辺地域に大きな被害をもたらした１９８３年や２０１３年の豪雨水害の経験を踏まえ、「地域の課題として防災をテーマに選んだ」と説明した。

益田高校3年の斎藤果歩さん(17)は「浸水の可能性がある場所が、想像以上に多かった。災害発生時にはワークショップで得た情報を基に、地域の人と助け合いたい」と話した。